

拝啓 紅葉が目に見える頃となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。第55号をお送り致します。

今月号からしばらく神谷美智子先生の著作集の中からご紹介します。

20年ほど前、私がうつ病で苦しんでいた頃、神谷先生の本の「10年近く前(41歳の頃) ガンを宣告されたとき果たすべきことを果さないで逝くことに対して流した涙をもう流したくない」という日記の箇所を読んで強く感銘を受け、それまでの自分のぐずぐずした生き方を変えて、毎日を全力で生きようという気に立ち直ることが出来ました。神谷先生も私の命の恩人なのです。

神谷先生は、精神科医師として、岡山県の長島愛生園でハンセン病患者の治療に当たられましたが、兵庫県芦屋市に住んで5時間かけて通われ、1週間のうち何日かを愛生園で過ごされました。「生きがいについて」は、昭和41年に発行され、ベストセラーになりましたが、治療の経験と多くの本の読書から生れた、りっぱな本です。

神谷美恵子先生は、内村鑑三・新渡戸稲造の弟子の前田多門の長女、母は無教会伝道者金沢常雄の姉、新渡戸稲造に孫のように可愛がられたこと、三谷隆正に親しく教えをこたえたことがあること、前田多門・安倍能成両文部大臣の通訳、東大精神科の指導教授は内村鑑三の長男の内村祐之、と若い頃綺羅星のような歴史上の人物に影響を受けられました。晩年は、美智子皇太子妃が声を失われたときのカウンセラーとなられました。すばらしく暖かそうな人柄で、内面はすごく強い意志をもって生き抜かれた、超人的な活躍をした女性のように思います。

神谷先生は、何回も大きな病気をされます。第1回が、女学生の時の結核、第2回が41歳頃のガンの宣告、この時はあと数ヶ月と宣告されたようです。年譜によれば、晩年は、57歳の時最初の狭心症発作、59歳狭心症で3ヶ月入院、60歳一過性脳虚血性発作(TIA)、狭心症で3ヶ月入院、61歳4回入院、62歳入院、63歳3回入院、64歳2回入院、65歳3回入院とあります。57歳以降は、心臓発作と脳虚血性発作で、入退院をくりかえされました。これほど病気をしながら、よく全集13巻を著す著作活動ができたと驚きます。医師、教師、主婦としてすべてのことの責任を果しながら、すべての細切れの時間を有効に使いながら、命を使い切った方だと言えるでしょう。

エンカウンターのおかげで、昔読んだ神谷さんの著作の跡をたどれて幸せです。神谷先生が言われるように、このエンカウンターが私の生きがいの一つになっているのだと強く思います。寒さに向かう頃、お身体御自愛下さい。敬具

平成18年10月30日

山口周三

エンカウンターの記事各位